

第3回こんな長崎どがんです会（令和4年8月21日）

テーマ：UIターン（移住施策の促進）について 参加者：8人（長崎県にUIターンした人）

主な意見	対応状況
<p>（長崎県がもっとアピール（情報発信）したらいいこと） 移住者には、自分のやりたいことを実現したい人（ライフスタイル派）実家を継ぐなど訳があって移動してくる人（訳アリ派）何となく来た人に分けられると思うので、それぞれに応じた情報発信が必要。 県内の各地域で頑張っている人同士の交流を盛んにすることで、住んでいる人たちが盛り上がり、地域の底上げにつながる。 先輩移住者が答えるQ&A「長崎移住知恵袋」のようなものをつくったり、移住者の一日の映像化して、悪い面も含めて思いを伝えることでPRできる。 長崎県内に住んでいる人が長崎の良さをアピールしてもらって、実際に移住してきたら現金支給をしたり税金控除をするなどのリファーマルボーナスのような紹介制度をつくってはどうか。</p>	<p>移住検討者への情報発信は県移住支援サイト「ながさき移住ナビ」を中心に行っております。 令和5年度には本ホームページを改修し、本県に移住を検討されている方が、ご自身の求める情報をより分かりやすく正確にキャッチすることができるよう、Q&Aを含めた情報の充実や整理、検索性の向上等を図りました。 また、移住検討者のサポートをしていただいた方に向けたお礼制度の創設なども行っており、今後も移住者の増加に向けて、工夫を凝らしながら各施策に取り組んでまいります。</p>
<p>（長崎県に移住するためにあと一步必要なこと） 小学校、中学校、高校、大学に関する特長や魅力等の情報が少ない。 空き店舗がたくさんあるのに、家賃が高く挑戦できないので、新しく事業をしたい人たちへの支援が必要。 空き家の問題は、仏様問題（お盆に使うので売らない）が大きいと聞いている。 海も山も農地もすぐにあってリアルに体験できるのに、体験を提供しているところが少なく、旅行で来たときや孫が来たときに体験すると、将来的に行ってみたくと思う。 例えば、長崎には海がたくさんあるが、どこで泳げるのか、どこで釣りができるのか などがわからないのでアピールが必要 移住サポートの情報を見る際、各市町の移住支援一覧や、イエス・ノーで選択して自分たちの希望に合う市町がどこかというのがあるとわかりやすい。</p>	<p>移住者支援の情報については、県内の市町とも連携しながら、内容の充実と併せて見やすくわかりやすい情報発信に努めております。令和4年度には、県・市町が実施している子育て情報の発信を強化したところですが、令和5年度にはさらなる改善を図るため、県移住支援サイト「ながさき移住ナビ」の改修を行いました。 今後も、県内各市町や県庁内各課、民間団体等との連携を深めながら移住の促進に取り組んでまいります。</p>
<p>（長崎県にUIターンした人が定住するために必要な支援） 特にIターンの人は移住後の困りごとを誰に相談したらいいかわからないので、サポートしてくれる制度があると定着しやすい。 各地域に釣りのコミュニティ、農業のコミュニティ等があると思うので、移住前からこのようなコミュニティ入ってもらおうのがよい。 長崎のこのまち、この島だからこそできることがあるのに、子どもの野外活動が意外と少なく、子どもたちの主体性を大事にした教育があるといい。 新卒の学生は、九州以内だったらどこの県でもいいと言う人が割と多いが、給料が安い福岡県に流れていっているのが給与水準をあげてほしい。 1か月程度、滞在しながら仕事ができ、子どもは欠席扱いにならないような体制があると移住しやすいと思う。</p>	<p>現在、移住の検討段階から相談に対応することができるよう、先輩移住者等を「ながさき移住コンシェルジュ」として登録し、活動を行っていただいています。また、地域によっては、活発なコミュニティ活動も行われているところであり、今後も引き続き、これら双方の連携が深まるよう、橋渡しをおこなっていきます。 コロナ禍で多様な働き方が生まれ、長崎県内でもリモートワークやワーケーションができる態勢が整ってきています。そのような情報発信も強化し、転職なき移住や二拠点居住なども促進してまいります。</p>